

カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：#Me Tooの時代のフェミニストアート

ハリウッドに端を発した「#Me Tooムーブメント」は、いまや多くの国に広がりつつあります。これを機に性別による差別はなくなるのか、この先も残り続けるのか。安易な予想はできませんが、芸術がつくれる現場においても性差別や伝統的な性的役割分担が存在するのは事実です。女性の表現者がいまでも体験する困難とは何か。困難を超えて可能な表現はありうるか。フェミニストアートは今後どのように変わってゆくか。フェミニズムを主題とする、あるいはフェミニズムに関心を抱く日独のアーティストが意見を交わします。

第2部：水景の美学

アクアスケープ（水景）とは、水を意味するラテン語と景色を意味する英語を結び合わせた言葉。アクアリウム（水槽）の中に人がつくった生態系のことです。日本はこの分野の先進国のひとつで、水景クリエイターの故・天野尚氏による「ネイチャーアクアリウム」は、石や流木に水草を組み合わせた独自の様式が世界的に高く評価されています。ゲームと水景に深く関心を抱くアーティストと、やはり水景に魅せられ、水草水槽の撮影にとどまらず、制作やメンテナンスまでも業務とする写真家が、その魅力について語り合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



小崎 哲哉 (司会、構成)
Tetsuya Ozaki (Moderator)
1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART iT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。realkyoto.jp



カタリーナ・ペロシ (サウンドアーティスト)
Katharina Pelosi (Audiokünstlerin)
(写真中央) ギーゼン大学応用演劇学科で学んだ後、サウンドアーティストとしてパフォーマンス、コレオグラフィ等の分野で活動。ハンブルクの研究所 Performing Citizenship にて、記憶文化媒体としての音の研究に取り組み。

ローザ・ヴェルネケ (照明/ビデオデザイナー)
Rosa Wernecke (Licht- und Videodesignerin)
(写真左) ケルン・メディア芸術大学とギーゼン大学応用演劇学科で学んだ後、照明/ビデオデザイナーとして演劇やダンスプロジェクトに携わる。フランクフルト大学等で、アートや演劇での照明をテーマに実践と理論を教えている。

ヨハンナ・カステル (舞台照明/空間デザイナー)
Johanna Castell (Raum- und Lichtgestalterin)
(写真右) ギーゼン大学応用演劇学科で学んだ後、ベルリンのドイツ映画テレビアカデミー (dfbb) で学生のプロジェクトの舞台美術に関わるほか、自らパフォーマンスの制作も手掛ける。

ペロシとヴェルネケは、アーティスト集団「Swoosh Lieu」のメンバーとして、カステルとともに、社会的なテーマのパフォーマンスに取り組み。ウィラ鴨川滞在中は、フェミニズムの目標や方法等について日本のクリエイターと交流し、インスタレーションの場となる実験空間をつくる予定。swooshlieu.hotglue.me



砂山 典子 (ダンサー、パフォーマンス・アーティスト)
Norico Sunayama (Tänzerin / Performance-Künstlerin)
1990年から「アーティスト集団」ダムタイプメンバー、2008年まで共同制作し舞台に立つ。並行して、The OK GIRLSなどユニットで、また他アーティストとのコラボレーション多数。ハイカルチャーとサブカルチャー、コンテンポラリーとエンターテインメントを往來しジャンル横断的に活動。



ティモ・ゼーバー (美術家)
Timo Seber (Bildender Künstler)
ケルン・メディア芸術大学で学んだ後、ドイツを中心に多数の個展を行う。プレーメンでの個展「Twitch」では、オンラインゲームをテーマとしつつ、日本の文化遺物も参考にした。ウィラ鴨川滞在中は、日本のビデオゲーム文化、ビデオゲームに対する日本とヨーロッパの意識の違いをリサーチする。また、水草水槽の世界と、アートのアプローチにおけるコンセプトや空間づくり等の類似性を探る予定。tobiasnaehring.de/artists/timo-seber



池田 晶紀 (写真家)
Masanori Ikeda (Fotograf)
1999年「ドランクアウトスタジオ」で発表活動を始め、2003年よりポートレート・シリーズ『休日の写真館』の制作・発表を開始。2006年株式会社「ゆかい」設立。2010年馬喰町へ移転、オルタナティブ・スペースを併設し、再び「ドランクアウトスタジオ」の名で運営を開始。国内外で個展・グループ展多数。アーティスト三田村光土里とのアートユニット「池田みどり」としても活動。現在、Coyote「水草物語」で連載中。水草レイアウトター。yukaistudio.com



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)
TEL: 075-761-2188 (内線31番)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa

〈交通のご案内〉
京阪電車 出町柳駅より南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より北へ徒歩6分
館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)

